

町議会10月臨時会

町議会10月臨時会は、10月5日に開催されました。審議された議案などの要旨は次のとおりです。

町長提出議案

監査委員の選任

9月29日に任期満了となった勝俣俊彦さんの後任として、西村和夫さん(箱根189)を選任することについて、同意されました。

専決処分承認

●平成17年度箱根町一般会計補正予算(専決第3号)において、参議院神奈川県選出議員補欠選挙が執行されることにもない歳入歳出に960万4,000円を追加し、総額を91億264万7,000円としたことについて、承認されました。

●平成17年度箱根町一般会計補正予算(専決第4号)において、台風11号により被災した道路、河川、公園および中学校屋内運動場の応急災害復旧を緊急に行う必要があるため、歳入歳出に2,039万4,000円を追加し、総額を91億2,304万1,000円としたことについて、承認されました。

●平成17年度箱根町温泉特別会計補正予算(専決第1号)において、台風11号により被災した温泉施設の応急災害復旧を緊急に行う必要があるため、歳入歳出に1億円を追加し、総額を2億6,330万円としたことについて、承認されました。

議会議事案件

議長 勝俣清春
副議長 勝俣信



議長 勝俣清春



副議長 勝俣信

総務企画常任委員会

委員長 杉山 幹雄
副委員長 勝俣 公好
委員 川端 祥介
折橋 尚道
勝俣 俊彦
勝俣 清春

教育福祉常任委員会

委員長 小川 鶴雄
副委員長 二見 嘉彦
委員 山田 和江
村野 由紀子

観光環境常任委員会

委員長 勝俣 昌子
副委員長 古川 貞夫
委員 仙石 有二
沖津 弘幸

議会運営委員会

委員長 折橋 尚道
副委員長 沖津 弘幸
二見 嘉彦
委員 小川 鶴雄
勝俣 昌子
川端 祥介



明治18年ごろの湯本

探そう！「箱根」の

第2回 「湯本」

湯本はその名の通り、「湯の元」つまり、温泉が最初に出た所という意味です。江戸時代後期の資料には、「箱根山中七湯の内、最初に温泉湧出せし地なれば村名となれり」と、村名のルーツが記されています。伝承によれば、湯本温泉の湧出は、奈良時代までさかのぼることが出来ます。天平8年(736)、全国的に疱瘡(天然痘)が流行し、多くの人が病に苦しめられていました。時の聖武天皇は、加賀白山権現の僧侶泰澄大徳に命じ、畿内の病魔を調伏させました。しかしそれ以外の地では、依然として病は治まりません。そこで、泰澄は病氣平癒祈願のため、弟子の臥行者を西の国、浄定を東の国へ遣わしました。天平10年(738)、この地を訪れた浄定は、湯本の地に白山権現社を建立、十一面観音を刻んで祈願したところ、山の麓から温泉が湧き出し、病氣を治す薬湯として、長く人びとの役にたつたということです。時移り治承4年(1180)、源頼朝が平家追討の旗揚げをした際、「敵が湯本の方から山を

越えてくると、取り囲まれてしまふ」(源平盛衰記)との忠告を受けたという記載があり、平安時代末期には資料上で「湯本」の名を、確認することが出来ます。江戸時代になると、箱根には湯本を始め、「箱根七湯」と呼ばれる七つの温泉場が揃い、病氣療養を目的とした湯治客が集う所となってきました。このような状況のなかで湯本は、箱根八里の沿道に位置するということもあり、東海道を旅する人びとが宿泊、あるいは立ち寄り湯泉に入っていくなど、大変な賑わいを見せるようになってきました。江戸幕府は本来、旅の途中で宿場以外の場所に宿泊することを禁止していました。しかし文化2年(1805)、湯本の温泉場は、特例として幕府から、伊勢講などの旅人の宿泊を認めてもらいました。これは、箱根が「湯治場」から「温泉観光地」へと移り変わるきっかけとなったものです。湯本は「湯の元」であるとともに、「温泉観光地箱根の元」であるともいえるでしょう。

探そう！「箱根」50年前の箱根 (2) パンフレット

郷土資料館では、合併から50周年を迎える平成18年秋、当時の箱根の様子を再現する企画展示を計画しています。

このコーナーでは展示資料の募集呼びかけを兼ねて、合併前後の町の様子について紹介します。今回は、箱根登山電車のパンフレットを紹介します。

現在、箱根登山電車の中には、昔の塗装を復元して水色に塗られた電車が走っていますが、パンフレットに描かれた電車は、まさに水色の電車。パンフレットには、昭和28年3月の運賃表が掲載されていますから、このころ水色の登山電車が走っていたことが分かります。地図を見ると早雲山から桃源台まで通るロープウェイはありません。ロープウェイの開通は、昭和34年



12月のことです(早雲山 大浦谷間)。小田急電車はすでに箱根湯本駅に乗り入れていて、昭和32年に新型ロマンスカー(3000型)が登場しています。このほかにも同年には駒ヶ岳ケーブルカーが開通(平成17年8月廃止)するなど、昭和30年代は、箱根の交通機関が大いに発達した時代でした。

「50年前の箱根」資料の募集

展示開催に向けて町民の皆さんから、次のような資料の提供についてご協力をお願いします。●昭和20年代後半から30年代前半にかけて、箱根観光の案内パンフレットや絵葉書、チラシ、宿泊施設のしおりなど

●合併前後に撮影された写真 お借りした資料は複写後、返却します。また、資料を寄贈していただいた場合は、大切に保管します。写真をお持ちの方は、郷土資料館へご連絡ください。

照会先 生涯学習課 (郷土資料館) ☎57601

まちかどレポート

みんなで歩こう！道のり6キロ

第6回 箱根大名行列保存会会長 小川雄造さん



「下にー下にー」と聞けば、誰もが思い浮かべる箱根の大名行列。開催を2日後の11月3日(木)にひかえ、気になるのはお天気ですね。

昭和10年、湯本にはじまったこの行列は、江戸幕府の参勤交代制度で江戸とを往復した小田原藩11万3,000石の格式にならっているのだそうです。6尺、挟み箱、毛槍、奴、大名籠、長持などで編成される総勢170人、全長200メートル

が、つちりとした体格、眼差しに指揮者の重みを感じました。現在会員は80人、東京在住の元、箱根の住人もいらっしゃるとか、そういう心意気があります。準備は、さまざまに始まります。当日着用する170着もの衣装、かつら、道具の点検確認から、終わった後の整理まで。これは湯本女性会が支えてくださっているそうです。

奴や毛槍の稽古は湯本小学校のご協力で体育館が使われています。そして当日の朝、花火の音が実行の合図。女性会の方々が限られた時間で参加者170人全

員の身支度を会長の手配どりに進めていくのです。ところで総勢170人の行列なのに、会員80人では数が合わないと思われませんか。そうです。それで毎年9月に大名行列の参加者を公募しているのです。

そんな大変なことにも関わらず、虹田町の復興感謝祭や大阪万博などに招かれたり、活動は国の内外に及びます。遠くアメリカ西海岸にまで行かれ披露されたこともあったそうです。行列の参加募集はその都度、現地対応、もちろんその時アメリカでも募集されたそうです。衣装、かつら、道具類はすべて日本から持ってきたものを使用しました。「当然のことですが、文が足りなくて...」、思わず笑ってしまいました。

楽しいお話しは続きます。伺っていて、会長をはじめ保存会関係者の方々やご支援くださる皆さんの強い熱意の輪に「養和」の心を感じました。私も来年は参加してみようかな。あの交通規制の中を「下にー下にー」の掛け声を聞きながら悠然と歩くのです。

まちかどレポート

真利子栄子

